
ゼロ魔でシュビィラ！～スターリン帝国の野望～（私は！？ by 主人公

沈没船長

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ゼロ魔でシュビイラー！〜スターリン帝国の野望〜（私は！？by 主人公

【Nコード】

N5649Z

【作者名】

沈没船長

【あらすじ】

情けない理由で死んだことでハルケニアに転生！そこでおこなう文明創造。勢いと思いつきの物語！どうなるかは作者も知らない！！そしていきなりタイトルを取られた主人公。

本小説はハルケニアを蹂躪しよう！といったものなので嫌いな方は見ないことをお勧めします。

転生！

「どこだどこ？」

私が目を覚ますとそこは何も無い広い平原だった。

「本当にどこどこ？」

確か昨日はC i 4を下手糞ながらプレーして制覇勝利が達成できて…。寝たのかな？

でもそれならなおさら「どこどこよ」。

『お主は死んでココはハルケギニアじゃ馬鹿もん』

「だれ！？」

『おぬしに姿は見えんよ。まあ、神と思ってくればええ』

「神？」

『そう神！で、話を戻すとお主は不眠不休でゲームをやりすぎて死んだんじゃよ』

「うわゝ。情けない死因だなあ」

特大の親不孝者だな私。

『で、そんなダメ人間は神のおもちゃとして使って良いってことで

ワシがもろつたんじゃ』

「何か言いたいけれど反論がしにくい…」

すでにやらかした事考えると当然ともいえる結果ですものね。

『どうしようかと考えていると直前までお主がしていたゲームと読んでいたネット小説から面白いアイディアが閃いての』

ほづほづ。

『お主にゼロの使い魔の世界で文明を一つ創ってもらう事にしたのじゃ』

「むりむりむりむり」

無理だから！私にそんな力ないよ！チューリップ仮面や世界の凄腕プレーヤーみたいに頭も腕もよくないもの。

『安心せい、特典はいくつかつけるからそんなに難しくはないぞい』

「え？いいの??」

罰でやらされると思ってたから特典なんてもらえないと思ってたけれど。

『別に小難しい事をさせる気は無いからの。暇つぶしにお主の文明発展を見たいわけじゃからな。それと罰は何千年も生きることになるわけじゃからそれで十分じゃよ。それにおぬし自身への強化は不老不死ぐらいじゃからの』

いいんだ…。じゃあ、さっそく特典の内容を聞きたいな。それとさつきから感じるこの違和感も。

『特典は技術開発の難易度の低下、建築物の建造速度アップじゃ。今後時代が進むと変わるかもしれないがそんなところか。それとサポート役の指導者を提供。それとお主が住む宮殿内部のみじゃが、お主が暮らしていた時代の最先端技術が使いたい放題と、メイドガールゴイルをいくらでも創造できることじゃ』

技術開発の特典は嬉しいな。それに千年以上あるとは言ってもかなり自堕落な生活も送れそうだ！まあ、そうなら攻め滅ぼされそうだけど。

「魔法とかは？」

『ない、あくまでもお主の文明対ハルキゲニア文明が見たいからのお主の無双など見てもしょうがないわい』

そうですか…。使いたかったな、魔法。

『労働力も畑から取るかのごとく生産できるぞ。ついでにむさくるしい男を見てもしょうがないから性別も女にしたぞい』

それかさつきから感じる違和感は！それに労働力を畑からって…、それでいいのか神？

『さらばじゃ、最初の開拓者とサポート役は後ろにいるぞい！』

その言葉を最後に神はいなくなっただけ。

性転換した事や服のことはとりあえず最初の都市を造ってからにしよう。そう思い振り向くと。

「フンガー！」

見るからに原始人ぽい姿をしたおっさんと。

「同志ナスターシャよ、共にすばらしき文明を造ろうではないか！」
体格が良いグルジアの熊さん。……スターリンがいました。

確かに最後のときにヒトラー、ムッソリーニとか独裁者ばかり集めて自分はスターリンでプレイしてたけどさ……。

いろいろ思うところはあるが、全て後回しにして近くにあった大河の横に都市を建築することにした。ゲームだと川の近くに立てるといいからね。

都市建造を宣言した瞬間に宮殿がよきによきと生えてきてポツリポツリと人が出た事には驚いたが、とにかくまずは近くを探查だ！とスターリンに斥候の量産と労働者の生産を命令して自室にきていた。部屋の壁に大きな黒い絵？が額縁に飾ってあった。

何かと思い近くで見るとどうやら地図のようで探査した場所が明るくなっているらしい。現在は都市周辺しかわからないがこれはなかなか便利そうだ。

それよりも当初の目的の姿を鏡で確認すると。

そこには美少女がいた！

女っただけでもアレなのに少女かい！

見た目はネギまのエヴァだろうか？ 姫カットに腰どころか、ひざ裏くらいまである長くてきれいな金髪。 つり目の赤い瞳といった容姿だ。

着ている服も白いレースが所々にあしらわれたゴスロリ風の黒いドレスで、手には手首までの白い手袋、足は三つ折の白い靴下と黒い靴、頭にも黒いつばが広い帽子をかぶっていた。

なんていうかお嬢様といった感じの服装だった。

とにかく何かいろいろ疲れたのでその日はさっさと寝る事にした。

転生！（後書き）

未完の話があるってのに始めちゃいましたw

この話は作者の趣味と面白いときと妄想で構成されるので真面目な話を期待してはいけません。

また更新も超不定期になると思うので注意です！

！
気晴らしにチラッと見てくすっと笑う感じにしていこうと思います

現状確認と勢力拡大！

あれからしばらくたって。

斥候も順次生産されていて、今は都市周辺の第二都市建設予定地を探しているところだ。

技術研究も本当に最初なため農業とかを研究させている。

ただこの前どこかの集落から青銅器の技術を貰ったらしい。どうやって貰ったかは知らない。

スターリンいわく。

「我々の斥候が到着したら快く技術者を提供してくれた」

らしい。なんとなくさらって来たように感じるのは気のせいなのかな？

(そもそも技術を提供じゃなくて、技術者を提供って……)

それで現在私が何をしてるかというところ。

メイドを創っている！

いやだって、最初過ぎて逆にやる事が無いんだよね。ゲームみた

いにターンを進めれるわけじゃないから。

だから暇つぶしと人気が全く無いこの宮殿を賑わせるために造っているのだ！

誤算はガーゴイルだから全員無表情ってことかな…。文明が進んだら人間の子を雇うぞ！

服装はミニスカニーソ！では無くメイド イのふぶ さんが着ているようなロングスカート普通の奴にした。もちろん白手袋着用で足元も白いフリルソックスといった趣味全開の物にした！

そんな感じでメイド創造やたまに来る報告を読んだりしている。

ちなみに社会制度を農奴制にしてビシバシ働かせている。

そんなこんなで2000年くらいたって。

都市も発展してきたし都市自体の数が増えて文明圏も順調に拡大している。

ただ問題は無いわけではなく、各地に派遣している斥候から得られる情報は、あまり嬉しくない物がほとんどだ。

まずと言うか全部といってもいい、自分の文明の位置なんだけど。

地球のロシアの位置にあり自然が結構厳しいこと、これだけなら何とかなるんだけどそれより問題なのは……。

文明がほぼ封鎖されているとこだ。

東は言うまでも無く広大な荒野が広がっていて、シベリア近辺は尋常じゃない吹雪が吹き荒れていて進むことが不可能らしい。

さらに死海から東は巨大な山脈が広がっていて越える事は困難であり、例え越えることができててもその地域を支配し続ける事は困難だろう。

ならば南はというと、中東はエルフの勢力圏なため進出は困難を極めるだろう。

なので必然的に文明を拡大させるには西、ハルケギニアへと進撃するしかない。

いずれエルフ圏も飲み込みたいが、今はまず農地の確保のために東欧へと進行するために戦力を整えている。

それからまた数世紀が過ぎて……。

無事に東欧辺りを獲得してさらに文明圏を広げることが出来た！
広大な農地を獲得したことで各都市の人口も順調に伸びていつて
いる。

何よりの朗報は、ついに火薬の開発と実用化に成功したことだ！

これではマスケット銃、大砲の開発と量産化、戦力化が完了すればハルケギニアへと侵攻を開始する。

魔法の存在が少しばかり気になるが原作であれだけ大戦期の兵器に手も足も出なかったのだ。

まだ原作よりも遙か昔、向こうの兵はせいぜい騎兵がと槍兵くらいだろう。後は弓兵。

高ランクメイジに多少てこずるだろうが数と基礎技術力の差で押しつぶせばいい！

ハルケギニアを獲得すれば海への玄関も獲得できる、あとは南北アメリカも飲み込んでゆっくと文明を育てていけばいい。

いくらエルフでも現代兵器を投入すればひとたまりもないだろう。

最初はどうなるかと思ったけれどこれなら簡単に世界制服も達成できそうだ！

フフフ、ハルケギニア解放の日が待ち遠しい。

現状確認と勢力拡大！（後書き）

まだまだ最初なんで年がガンガン進んでいきます。

とりあえず今回はここまで、次回は気が向いたときに投稿します！

魔法の脅威と今後の方針！（前書き）

ネタが浮かんだので投降！

これを書いた時点でPV700・ユニーク200を超えていて驚きました！

魔法の脅威と今後の方針！

前回からちよこつとたつて戦力が整つたのでハルケギニア解放作戦の発動と北欧開拓作戦を発動した。

「これで憎き貴族から人民を解放することが出来ますな！」

スターリンも乗り気だった。

戦いは圧倒的大軍と数世代先の装備を揃えたこちらの楽勝だろうと、私は最近雇い始めた人間のメイドの子に着せる制服を考えたり、気に入った子の着せ替えを楽しんで報告を待っていたのだが……。

我が解放軍がハルケギニアに入りドイツとかその辺りまでは、やっと集団戦に移行したらしい相手を蹴散らしていたのだが。

トリスティン、ガリア、ロマリアの国境付近に接近した部隊がごっそりと消滅したって報告が飛び込んできた。

何かの間違いかと思いきい詳しいことを報告させたときには、部隊の過半数が消えた後だった。

どうも高ランクメイジがああ4国に近づいたせいで戦場に出てきて、次々に部隊が消滅していったらしい。

もっと詳しいことが聞きたいが、今は逆侵攻されてこちらの土地に被害が出ないようにしないといけない！

増援として向かっていた部隊の半数をそのまま進ませて時間稼ぎ

をして、残り半数と現地駐留部隊に焦土戦術まがいの略奪と破壊をさせつつ国境近辺まで後退させた。

それのおかげで向かわせた部隊は全て消滅してしまったが、何とかこちらに侵攻する事を断念させられた。

「どうやら魔法をなめていたみたいね」

「そのようですな。まさかこれ程とは」

戦後処理も終わり敗北の原因調査をしていると、私が魔法をなめて過ぎていた事がわかった。

確かに現代兵器にとっては高ランクメイジとてゲリラ戦以外でたいた脅威とにならないが、やっとマスケットを開発した私たちからすれば十分すぎるほどの脅威だった。

「こちらの銃をこえる速射性と射程、榴弾クラスの破壊を可能とする威力か……」

マスケットの射程はかなり短い。使っている弾が球形だから仕方がないが、相手の白目が確認できるまで接近しないとろくに命中しない。連射などもってのほかだ。

その点、魔法は全てにおいてマスケットを上回っている。

開発が間に合い、もっていった大砲も榴弾ではなくただの巨大な鉄球で発射のたびに位置を直すか、穴をほって固定する必要がある

せいでこっちも魔法に比べて劣っている点が多い。

それに命中率を上げるために密集させていたせいで、そのど真ん中にトライアングルクラスの魔法を撃ち込まれてまとめて吹き飛んだとか……。

他にも巨大なゴーレムを突っ込ませて陣形が崩れたところを各個撃破とか散々な結果だ。

水系統による治療も厄介ね。至近距離なら腕を持つてくくらいで
きるけれど遠距離だと治療できる範囲なのが……。

今までや文明圏内にメイジが居なかったからわからなかったけれどどこまでとはね。

中世レベルだとまさに無敵とっていいほどね。

「それに多数のマスケットや大砲を奪われたことは痛いですが……」
膨大な数で攻め込んだせいで置いてきた物もまた多かった。これで
こっちのアドバンテージがかなりなくなってしまう。

「当分は技術育成をしないと攻め込めないわね。最低限、機関銃と
大砲に駐退復座機を導入して大戦期くらいの技術は欲しいわね。そ
れと航空戦力も」

「こっちは神がそう仕組んだのか幻獣の数かなり少ない。おかげ
で向こうの飛行可能な幻獣にどれだけ手を焼かされたか……。初歩
的なフネもあつたわね。」

「そうだな、しかし結果的に向こうの戦力がわかり、領土も少しだが広がったからいいだろう」

「北欧開拓は成功したし、多少は広がったものね。失ったものは人命くらいね」

「うむ、民はいくらでもいるから、むしろ維持費が減ってよかったかもしれない」

「そうね。マスケットは役立たずだったことがわかったものね」

今後の方針が決まって技術開発ツリーを開いたのだけど。

「あれ変わってる？」

今までは大きな意味での開発だったが、何故かかなり細かいものになっていった。

たとえば今までは、製鉄を開発すれば後は時代に合わせて進歩していくし。製鉄に必要な機材の開発をする必要は無かった。

だけど今開いた技術ツリーは、例えば車だとエンジン、タイヤ、フレーム、素材といった関係するさまざまな技術を別個で開発する必要が出ていた。

「難易度を上げたのかしら？」

ある程度は流用できるけど、こうなると技術開発は一気に遅れるわね。

試しにゼロ戦を開発できる技術にかかるコストを見てみただとんでもなくかかるわね……。

原作が始まる年代に間に合うかどうか、かしら？

機関銃と近代大砲に必要な技術と初歩的な戦車は大丈夫そうだけど。

「こうなると何か別の航空戦力を探さないかね。……これが良いかしら？」

見つけた技術は『飛行船』に関係する技術だった。

「これなら航続力は大丈夫だし、速度も相手のフネと幻獣だから大丈夫ね。パイロッドはハルケギニアからフネの技師を連れてきて風石関連技術を輸入したほうがいいわね」

確か原作だと風石が増えて大陸がどうのこうのとあったし、使えない土地や山を掘れば何とかなるかな。

「それにしても装甲と大砲で武装した飛行船か……、思いっきりゴリテね」

幻獣も連れて来て繁殖させて航空団と空挺団を創ろうかしら？ドリターズみたいなドラボン隊とか面白いわね。

当面の方針は産業革命を目指す事と軍事力の近代化を目指すさない

とね。

方針が決まった事だし中断していた人間のメイドの子の制服を決めないかね。色とエプロンや袖口のデザインの差で見習いとを分けようかしら。後は専門にあわせて何かブローチか何かを持たせるとか……。

魔法の脅威と今後の方針！（後書き）

一回敗北しました。魔法の威力を説明するためと今後の技術方針を決定するのに必要だったので負けさせました。領土は広がったけどね！

ついでにこれが後のゲルマニア誕生の経緯だったりもします。

戦争は当分ないので、暫くはだらだらとした話になると思います。

最初は原作キャラは出さないと思っただんですが、視点が全部こつちだと淡々としたものになってしまいそうなので。

驚き要員で原作キャラとオリ転生キャラ出す予定です。（続けば…）

駐退復座機：発射の反動を緩和させる駐退機と方針を元の位置に戻す復座機で構成される。これによって近代砲術が誕生したとも言える偉大な発明。

詳しくはwikiで！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5649z/>

ゼロ魔でシュビィラ！～スターリン帝国の野望～（私は！？by主人公

2011年12月20日01時02分発行